

雑草

二六

女高師 大 岩 金

うらかな日曜日の一日を子供と一緒にのんびりとうちくつろいで遊ぶに無難なものといへば先づ野外散歩であらうかと思ひます。即ち紫雲英を畑に或は堤づたひに流れゆく花を賞したり雑木茂る小高い山にのぼり空飛ぶひばりの聲に一時切株に腰をおろしてその音をきくいるなど色々な方法もありませう。或は道への草をつむこともありませう。

かかる路傍に生えた草と申しますれば見るに足りないものもありますが是を家づとにして庭の隅にも植ゑますならばこれ又野趣あつて誠に價値あるものとなるものも澤山あるのであります。野邊の草は根をとらずに花丈をとるのが野生植物愛

護道徳ではありますが元來このやうな雑草は私共特に手をかけて育てますやうな園藝植物とは異なり外界に對する抵抗力も繁殖力も強いものでありますから家庭に持ち歸り植ゑますにも土質その他植付け後の管理などさしたる手数をかけずしてよく生育致しますから小供の花畑などには是を鹽梅よく取捨して植ゑ込みますならばよいかと思ひます。

以下庭にとりいれて觀賞出來さうな雑草のいくつかにつきましてあらましを述べ後日散策なさいます時に少しでも利用されますならばこの上もないことと思ひます。

それについて申します前にかゝる意味において

散歩なさいます場合には必ず一個又は二個の袋か籠を用意したいと思ひます。つんで花束にする丈ならばその方の袋はさほど必要でもありませんが家に持ち歸つて植ゑやうと思ふ方の分には必ず用意しなければなりません。それにはどんな布で造つた袋でも又用ひ古しの袋でも差支へありませんその中に油紙をぬひつけておきまして泥のついた濕ほした根や株を入れても濕氣が外にしみ出ないやうにしておけばよいのでありますそして口はなるべく大きくして出し入れに自由なやうにし又さげられるやうに紐をつけておく方が便利かと思ひます。それに小さいシャベル即ち根掘りであります。これはややもすると堀り取ることが終ればその場におき忘れ勝でありますから是非紐をつけて袋なり腰なりに結びつけておくのであります。これから用途によりまして分けてみたいと思ひます。

一、傾斜地、遊び場、花壇の縁等に使用するもの。

イ、クローバー

クローバーは以上の外に牛馬の飼料ともなり又肥料ともなるのであります。自然には田のあせなどに生えて居ります。蔓になつて地にひろがつてゐるのをぬきとつて歸り是を耕した地にならべその上に土をかけて葉のみえがくれする程度にしてその上をかるく踏んでおけば容易に活着致します。そうしてこれを又秋か春にひろがつた蔓を切りわけて植ゑておけばいくらでも繁殖させることが出來ます。

ロ、紫雲英

紫雲英も農家では肥料用として稻を刈りつた後の田に栽培致しますがクローバーと同じやうに田のあせにも路傍にも到る所に自生して居ります。これは小面積に植ゑたよりもなるべく広い場

所一面にあの赤い花を咲き揃はせたのが一層美事であります。即ち「やはり野におくれんげ草」と云つたやうに群集的花でありませう。しかし是を廣い面積を埋める丈を採集して歸るといふことも困難でありますし咲いた花は野にあります時程に長くはもちませんからこれは花時に根ごとの採集はさけた方がよいと思ひます。花が終れば黒い莢の實が出来ますからこれをとつておいて來る秋をまつて適當な場所にまくのであります。又これは種苗店にも販賣しております凡そ一斤一圓二十錢位であります。それで一斤あれば約四五十坪の面積に蒔くことが出来るのでありますがこれは色々の事情によりまして一定したものではありません即ち土地の肥瘠や蒔時の如何、蒔付け後の天候や手入などによりまして増減するのであります。

ハ、蒲公英

春早く萌え出た新萌は根と共に食用にする事も出来ます。路傍やあれた原野に自生して居ります。紫雲英と反對に多數一ヶ所に集めましたよりは紫雲英の赤い中やクローバーの緑の中に點々と黄にもえ出たのを賞する方が趣きあるもののやうに思はれます。長い柄の先に咲いた黄の花はやがて冠毛といふ軽い毛を持つた種子が澤山に飛散してそれはやがて風が訪れますと諸所方々に飛散するのでありますそして思ひもよらぬ所にまでその子孫を繁榮させるのであります。この軽い飛ばされ易い種子をみつけまして持ち歸りこれは「とりまき」と申しまして直ちに下種するのであります。そうしておきますれば秋には發芽して來る春には開花するのであります。根は丁度牛蒡の根のやうに太い一本の長い主根があつて是にいくらかの支根が出て居ります秋に根分けをしてこの太い根を二三寸の長さに切つて切口に土か灰かをつけて

少し乾かして土に埋めておいてもよいのであります。

二、纏絡用のもの、即ち花壇の周囲とか他の部分との境界とかアーチなどに用ひるので木又は竹などで四ツ目垣の如きを造つておいて是にかからませるのであります。

イ、葛

雑木林の中などに自生して居ります。

秋の七草の一つとして何人にもよく知られてゐるものであります、花は葉腋に五六寸の穂を出して紫赤色の蝶形花をつけるのであります花の後には大きな莢を結びます。

春に葉の出た根を堀りとして是を他物にからませますならば長いのは二三丈ものびますから充分に役立てることが出来ませう。

ロ、あけび

山野に自生してゐる蔓性の灌木でありまして葉

は五個の小葉が集まつて掌状をして居ります四月頃新葉と一緒に暗紫色の花を開くのであります。

昨今は是を以つて門をつくつてゐるのが時折見當りませんがなかなかすて難い趣きのあるものであります。是も一度根を植ゑつけておきますればその後は年々手入する必要はありません。

三、花畑に植ゑるもの

周囲の垣も出来遊び場もクローバーや紫雲英で埋まりましたならばその一部分を適當な場所に形も種々考案致しまして切りぬきその部分を花畑にするのでありますそして次に挙げますやうなものをそれ〴〵に配置して植ゑ込めばよいのであります。或は又單なる花畑に致しませんで山に生育致しますものは一部分を小高く土盛りしてその部分に植ゑ土をとつて低くなつた所は簡單なシツクヒにしてもらつて水を溜めそこには水草を植ゑるといふやうに致しますならばこれまた自然の妙趣を

そへて一層面白いものになりはしないかと思ひます。さてその主なるものと申しますれば、

1、山のもの

イ、春蘭

到る所の山林殊に小松林内の榊やつゝち等の灌木の根本に自生して居ります。細長い常緑の葉の間から四月頃になりますと淡黄緑色の花を開きます色は洋蘭に比べまして單調でありますがい香がありまして誠に上品なものであります石のわきにあしらつたのなど趣き深いものであります。これは山土の様な赤土のごろくしたものに植ゑるのがよいのであります。

ロ、撫子

山野の草原地に自生しておりまして一名かはらなでしこともいひ秋の七草の一つであります。高さは一、二尺にのびる多年性のものであります淡紅色の可愛らしい花を開くのであります。秋に

なつてその種子をとつて蒔いてもよいのでありますが春に山で採集した株をいくつかに分けて植ゑておきますならばもうその秋には美しい花を眺める事が出来ますそして毎年秋の花後か春に一度づゝ株分けを致しますならば容易に多數の株に増殖することが出来ます。

ハ、桔梗、おみなへし、ふじばかま、萩

是等はいづれも山野に自生しております。誰にも秋の七草の仲間としてよく知られて居ります是等を春のうち山に遊びましたならば葉を見てその根を掘りとつて植ゑておきますれば秋にはそれづくに異なつた美しい花を見ることが出来るのであります。

ニ、やぶこうじ

杉松林などの下に苔等の生えてゐる中に蕨の様に次から次へと伸びて居ります。それ故に植ゑますにも岩かげなどのあまり日光の直斜しない様な

場所を選ぶべきであります。

ホ、りんどう

これには秋に咲くりんどうと春に咲く春りんどうとがあります前者は山に後者は多く野原に自生して居ります。花は紫色の筒状をしてゐて莖の頂に數個開くのであります。

その外百合の類や鳶の類など數多ある事と思ひます。

2、野のもの

イ、すみれ

野にも山にも道のほとりにも到る所にみられるものでありまして而も衆人に愛せられるものでもあります。種類も澤山ありまして或は色彩の美しいもの又は芳香をもつてゐるものなどあります。そして一度是の株を植ゑておきますならば毎年春になりますれば若葉を出して花を開き私共を楽しませるのであります。

にほひたちつばすみれ、寒地に自生してゐる種類で淡紫色の花を開き最も香の高いものであります。

たちつばすみれ、到る所に自生してゐるもので開花期間も極めて長く早いのは冬から開き又遅いのは夏にも及ぶものがあります。

たちすみれ、少々濕氣のある所に自生し莖は高く直立致します花は五六月頃白色の小形で紫條のあるものを開きます。

まるばたちすみれ、おほばたちすみれ、いづれも莖は直立し花色の濃い種類であります。

みやますみれ、山地に多く自生し無莖の種類であります葉は卵形で花は淡紫色又は少々白色をして居ります。

こみやますみれ、ひめみやますみれ、兩者とも前者と同様に山地に自生して又無莖のものであります花も大同小異であります。

この外にもひかげすみれ、まるばすみれ、けまるばすみれ、あふひすみれ、ふもとすみれ、こすみれ、えぞすみれ、しろばなすみれなど多くの種類があります。

ロ、千本やり

林野に自生するものであります。草姿はガーベラに似て居りますがその葉も遙かに小さく葉の裏面には軟かい毛がありまして緑白色をして美しいものであります。四五月の頃淡紫色の花を開きます。是はデージーと同様に扱ひまして花畑に植ゑましても黒い小鉢に入れましても可愛らしいものであります。春にこの株を植ゑましても又秋になつてたんぼぼのやうに冠毛を持つた種子を蒔いてもよいのであります。或は自然に放任しておきましても次の春にはこゝかしこに思ひがけない千本やりの姿を見ることが往々あるのであります。

ハ、よめな

到る所の原野、路傍などに自生して居ります。春の七草の一つとしてよめなをつむことは古書などにもみえてゐるやうであります。これはやがて秋になりまして紫色の濃淡様々な又葉も廣いのや狭いのなどありまして秋の野邊を飾ります。野趣に富んだ野菊と呼ばれるものは是なのであります。春の陽光をあびて若芽は簇々とするのであります。この株を堀りとりまして一本づゝに分けて植ゑておけばよいのであります。

よめなに似たこんぎくも同様の方法で扱へば充分に庭にとり入れることが出来ます。

この外普通にあるものと致しましてはのこぎり草、とりかぶと、さぎごけなどあります。尙人々の嗜好により數限りもないことゝ思ひます。

3、日かげに育つもの

日當りのあまりよくない花畑や建物や垣壁、木のかげなどにもそれ相當のものを植ゑますならば

充分に觀賞することが出来ませう。即ち多くの羊齒の類は半日のかげを好むものでありますから、山野に遊びました時に是等のものを取つて歸りますならば充分に役立てられます、殊に炎熱焼くがやうな夏の日に青々と緑したるばかりの羊齒類の生ひ茂つてゐる中にいこふといふことは身心共にすが／＼しくなるものでありませう。

くさぞてつ、山野に自生しておるのであります。觀賞用として人家に栽培することもあります。葉は羽狀に分裂してその形は稍々そてつに似て居ります。是は地中に小枝を出して盛に繁殖するのであります。

やまそてつ、山地に自生してゐる常緑の羊齒であります。根莖から二尺程の葉を出しましてこれも稍々そてつの葉に似て居ります。

しのぶ、山地にある極普通の種類であります。根莖には黒褐色の毛を密生して居りまして所々か

ら葉を出します、この根莖をとつて他物にからませ夏に軒下などに吊してあるのはよく見受けることとであります。

こもちしだ、海岸に近い山地等に多く自生する種類であります。地下の根莖から羽狀複葉を出すことは多くの羊齒類にみる所と同様であります。特にこの羊齒は名の如く葉面に無性芽を生じて是が後に落下して、又新しい一つの羊齒となる特性をもつて居るのであります。

いぬわらび、到る所の山野に自生してゐて最も普通の種類であります。葉は卵狀橢圓形で大きいのは二尺にもなるものがあります、尙このいぬわらびの中にはひろはのいぬわらび、ほそほのいぬわらびなどがあります。

その外にもたまじだ、じふもんじだ、をしだときはしだ、りやうめんしだ、はこねさうなど種々あります。是等はみなその地下莖を堀り取つてきて地に埋めておけばよいのであります。その他日かげに育ちますものとしてはつはぶきなどは丈夫なもので、葉は光澤がありますし、中には斑入になつたものさへありまして充分に觀賞の價値あるものと思ひます。水生のものに就きましては次回に述べたいと思ひます。